

++

	NPO 法人 京都観光文化を考える会 都草だより	第73号 発行人：小松香織 編集人：西野嘉一 発行所：京都市上京区 下立売通新町西入 京都府庁旧本館2階 電話：075-451-8146
---	---	--

■ 新入会員オリエンテーションに参加して



この度ご縁があり入会しました。きっかけは、仕事でお世話になった税理士の先生からご紹介いただいたことです。仕事の傍ら、私が歴史や城が好きなことを先生に話をしたら、「こんな団体があるよ」と、都草のことを教えていただき、自分なりにもいろいろ調べて入会を決めました。

オリエンテーションは、進行役の熊谷副理事長をはじめ、小松理事長、各担当役員の皆様からご説明いただきました。とても気さくにお話いただき、和やかな雰囲気の中で聞くことができました。

当日参加された方は私を含め6人、みなさん入会のきっかけは様々でしたが、「京都」という根っこ部分は共通しているなあ・・・と、あたりまえのことでしょうが一人納得しておりました。活動内容は非常に幅広く、興味のあるものがたくさんありました。まずは美化活動や御所御苑ツアーあたりから参加できればと思っています。

オリエンテーション会場の京都府庁旧本館は今回が初めてでしたが、その雰囲気はなんとも独特な重厚なもので、旧本館内や旧議場を案内してもらっただけでも「来てよかった」と思えるものでした。今も一部は現役として働く旧本館の生い立ちを聞いて、幕末から明治維新の京都についても「もっと知りたい」との思いが強くなったことなど、とても有意義な時間を過ごせました。最後になりましたが、これからいろいろな活動でお会いできる会員の皆様、どうぞよろしく願いいたします。(会員 岸 哲也)

■ 修学研修の事前学習を実施して（東京支部の活動について）



東京支部は、2020年からのコロナ禍によって事実上休眠状態が続いていましたが、このところ公的規制が緩和されつつあることもあり、改めて新生東京支部の体制を再構築し、活動内容もリニューアルしました。

その一環として、東京にある実践学園中学の修学研修のための、事前学習講習を実施しました。実践学園では、毎年11月に京都・奈良へ2泊3日で行く修学研修を行っていたのですが、コロナ禍

によって過去2年間は実施しませんでした。その空白があったこと、および京都の歴史・地理・風土に詳しい教員が少なかったことから、今回の事前学習の企画が実現しました。

対象が中学2年生ということで、あまり内容を深く掘り下げず、日本史の流れを辿りながら、数人単位の班に分かれた自由行動プラン作成に役立つよう、注目すべきスポットを中心に紹介しました。

結果として、学校からは非常に感謝され、来年以降も継続する方向です。東京支部としては、実践学園での成功をもとに、今後さらに対象の学校を拡げていくよう活動していくつもりです。

会員の方で、東京や首都圏で思いあたる学校がありましたら、ぜひご一報いただきますようお願いいたします。(理事 久宗 圭一)

■ 第100回歴史探訪会 伏見深草部会「激動の伏見 明治維新を行く」に参加して



10月26日13時30分、京阪伏見桃山駅にスタッフを含む41名が参加しました。集合の挨拶に先立ち、森支部長から今回は歴史探訪会100回目に当たる記念すべき会であると述べられ、私も少し発足当初のことを語りました。初めての歴史探訪会が行われたのは、2007年4月9日で18人が参加して、京阪墨染駅をスタートし欣浄寺から海宝寺を経て、伏見城址を巡りました。第1回も伏見であり、第100回も伏見に戻ってきたことに不思議な縁を感じます。都草の発足につきましては、京都検定が縁となって特別顧問の坂本さんから呼びかけがあり、2007年1月28日「京

都検定を考える会」として集まり、活動を開始しました。同年4月29日「NPO 京都観光文化を考える会・都草」として日昇館で設立総会が開かれ、正式に都草として40名余りの人数で発足しました。したがって歴史探訪会は都草発足以前から始まったこととなります。その時の参加者の中から、今日坂本、林、田村の3名が第100回に参加しています。

それから15年余り、会員も380名を超え当初から都草に携わってきたものとしては本当に喜ばしいことです。100回に及ぶ歴史探訪会においては皆が足で歩き、史跡、石碑、駒札などから集めた資料は都草の財産であり、いずれ本としてまとめられることでしょう。新しいメンバーにこの会が引き継がれ、ますます発展されることを楽しみにいたしております。当日は幕末の伏見をテーマに、鳥羽伏見の戦いの弾痕が残る魚三楼、新撰組が最後に陣取った伏見奉行所跡、寺田屋では島津藩の寺田屋事件や竜馬遭難事件をしのび、そして島津藩邸跡、松林院の寺田屋お登勢の墓、最後は島津寺と呼ばれている島津家ゆかりの大黒寺など、幕末の史跡をたっぷり楽しんできました。(会員 林 寛治)

■ 映像制作「京都 都草のとおき」リリースの紹介



今春から活動を始めた映像制作プロジェクトでは、第1作「京都御苑」に続き、第2作「水の都・京都」が完成し、10月1日からYouTubeに公開しています。都草のホームページから見るができますので、すでにご覧になった方も多いかと思います。

1200年にわたる京都の歴史は、“水”の力が大きく働き支えてきたという視点で、“水”が与えた広範囲に及ぶ影響を多角的に捉えてまとめ上げた作品です。

また11月19日には、第3作「俳句の聖地・落柿舎」をYouTubeにて公開しました。皆さんもよくご存知の、嵯峨野の一角に佇む落柿舎を取り上げ、今ブームになっている俳句をキーワードにしてまとめ上げていま

す。第2作目までと異なり、時間も5分41秒と短く、製作も短期間で完成させるという、新たなパターンとして取り組みました。まだご視聴されていない方は、ぜひ一度ご覧ください。

現在、プロジェクトでは次作の制作に取り掛かっていますが、今後取り上げて欲しいテーマ等、会員の方からのご意見をお待ちしています。更に、新たなメンバーも募集していますので、興味関心のある方は気軽に事務局まで問い合わせ下さい。(理事 久宗 圭一)

